

満員御礼! 循環器がもっと身近になる

第15回 循環器専門医を志す 研修医のための卒後セミナー

毎年開催しております日循卒後セミナーも今年で第15回となりました。

本年も小人数グループによるディスカッションを軸に意欲的なテーマを設定いたしました。

定評のあるチューター陣によるバックアップがありますので、どうか皆さん奮ってご参加ください。

※セッション内容につきましては事前にメールにて資料をお配りします。

現場を支える循環器医に贈るスキルアップ講座

参加者の約8割は卒後2～3年目の先生です。

患者を一人でも多く救命するために どうすれば良いか講師、
チューターと一緒に議論しましょう!

昨年の参加者の声

〈アンケート結果より抜粋〉

- 今の研修病院ではおそらく経験しないであろう重篤かつより注意深い観察治療が必要な症例を追体験するような感じで非常におもしろかったです。
- いろいろな選択肢があること、一概にどれとは言えない難しさを知ることができた。
- 症例を検討した上で解説があるという非常に理解しやすいフォーマットであった。
- ただ聴くだけではなく、ディスカッション形式で実際に自分が症例に出会ったら、どう考えるか、どう行動するかを考え、整理できたので良かった。
- チューターの先生方が参加者の学年、レベルをみながら進めて下さるのでとても考えやすかったです。



外科・内科問わず、循環器診療に携わる
又は興味がある全ての若手の先生方が
対象です!

日時/ **2019年 7月7日(日)**

10:00~16:00 (9:30受付開始)

会場/ 東京女子医科大学病院大会議室(東京都新宿区)

参加費(昼食付)/ 会員3,000円、非会員5,000円

募集人数/ 70名 申込順

締切予定/ 6月21日(金)

企画: 一般社団法人日本循環器学会 教育研修部会 卒後セミナーワーキンググループ

(志賀 剛、尾野 亘、香坂 俊、里見 和浩、田端 実、中川 義久、西原 崇創、真鍋 晋、池村 修寛、伊藤 丈二、久保 亨、鈴木 敦、水野 篤、矢加部 大輔、山地 杏平)



●プログラムの詳細・参加申し込みは、日本循環器学会ホームページ・ピックアップコンテンツ
「第15回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナーのご案内」からお申し込みください。

●お問い合わせ: 日本循環器学会事務局 教育研修部会

TEL: 03-5501-0861 FAX: 03-5501-9855 E-mail: j-kyoken@j-circ.or.jp

満員御礼！循環器がもっと身近になる

第15回

循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー

現場を支える循環器医のためのスキルアップ講座

プログラム

Ice Breaking: 西原 崇創先生

40分

「明日から生かせる知識を整理 リスクスコアを総復習！」

CHADS2スコアのように循環器領域には様々なリスク評価のスコアがあります。

最近はあまりに多すぎて、そのすべてを理解し臨床に生かすことは難しいと思います。クイズ形式で復習しながら明日の診療に役立つ知識を整理しましょう。

午前のセッション: 池村 修寛先生、久保 亨先生、鈴木 敦先生、矢加部 大輔先生

90分

「TAVIか? PTSMAか? インターベンションの適応をじっくり考えよう」(前半45分)

座長: 香坂 俊先生

演者: 池村 修寛先生、久保 亨先生

近年、transcatheter aortic valve implantation (TAVI; 経カテーテル大動脈弁留置術)を代表とする、structure heart disease (SHD; 心臓構造疾患) に対するカテーテルインターベンションが注目を浴びています。しかし、治せるようになったが故に、その適応に関して頭を悩ます事も多く、特に複数の病態が合併した症例では一入です。このセッションでは実際に経験した症例に基づいて、参加者の皆さんと共に病態、併存疾患、患者・家族の意見などを交え、治療適応の是非を包括的に検討したいと思います。

「失神— 思い込み、だろ？ 診断はやっちゃダメ」(後半45分)

座長: 里見 和浩先生

演者: 鈴木 敦先生、矢加部 大輔先生

失神の原因は様々です。明らかな原因が判明せず、焦り、陽性所見がでたら、思わず前のめり診断してしまうことはありませんか？

ひとつひとつ可能性を潰していくのが、診断の基本です。ケースを通して考えてみましょう。

ランチョンセミナー: 青木 浩樹先生 [Basic Science Lecture]

40分

「基礎研究から臨床医療への架け橋」

座長: 尾野 亘先生

演者: 青木 浩樹先生

臨床経験を積み知識を学ぶことは良き医師になるために必須です。しかしそれだけで臨床力は身につくのでしょうか？ 臨床医には、日々新たな問題に向き合い解き進める能力が求められます。我々は臨床医を対象とする調査から、研究経験は臨床経験とは独立した強力な能力獲得要因であることを見出しました。今回は我々の研究の一端を紹介し、その研究経験がなぜ臨床医の能力獲得に結びつくかを皆さんと一緒に考えたいと思います。

午後のセッション: 水野 篤先生、山地 杏平先生、伊藤 丈二先生、田端 実先生、真鍋 晋先生 120分

「繰り返す心室細動のミステリー ～そして、先生ならどうするか～」

内科: 水野 篤先生、山地 杏平先生

外科: 伊藤 丈二先生、田端 実先生、真鍋 晋先生

いろいろ一人でこなせるようになって自信がついてきた内科研修医3年目のある日。そんなときに遭遇した、夜間突然の心室細動。蘇生したものの…。

その時何が起こったのか？ このMulti-modalityの循環器時代に何を検査し、何をどう治療してゆくべきなのか？ 実際の症例をもとにシミュレーション！

WGメンバーのキャリア紹介: 池村 修寛先生、伊藤 丈二先生、久保 亨先生、鈴木 敦先生、水野 篤先生 40分

「私の歩みを公開！あなたが後悔しないために！」

座長: 中川 義久先生

講師陣に自分の医師としての歩みを、悩みや迷いも含めて正直に語っていただきます。循環器診療に携わる医師としてのキャリアをどのように積んでいくのかのヒントをつかんでください！